

何気なく住んできた四絡の昔を知る、郷土に愛着心を深め、ふるさとの歴史を次世代につなぐ「四絡の昔を知ろう」
矢野町 吾郷弘司さんに地質学の観点から四絡の歴史を紹介していただきます。

『四絡の昔を知ろう』(その4)

④四絡地区に存在する遺跡

四絡地区は①矢野遺跡 ②小山遺跡 ③姫原西遺跡 ④蔵小路西遺跡 ⑤渡橋沖遺跡 ⑥大塚遺跡 ⑦姫原西遺跡の7つの遺跡を有し、「四絡遺跡群」と呼ばれ、出雲市でも有数の集落遺跡の密集地帯として知られている。これらの遺跡はいずれもドームや公的施設の建設、さらには先年のバイパス建設に関連した多くの発掘調査が行われたことにより一気に古代の様子が明らかになった。

発掘作業によって出土した遺物の多くは「埋蔵文化財」として「弥生の森博物館」に収蔵されているが、そのほとんどは未整理であり早期に整理開示されることを願っている。

また、発掘結果は教育委員会が発行する「発掘調査報告書」によって報告されているので参考にさせていただきたい。(※ 報告書の多くは弥生の森博物館に所蔵されている)

○矢野遺跡

四絡遺跡群の中核をなすものであり、弥生時代から古墳時代までの遺物(土器や生活什器)を中心として出土し、八野神社周辺では縄文時代末期の遺物(土器)も確認されている。

- ・ここでは、古墳時代の初期の竪穴式住居や柱穴と思われるものも見つっている。特に、古墳時代から中世にかけての集落跡が見つかり、多くの土器や木製品も出土。また、中世の部分からは「下駄」「漆器」も出土している。
- ・矢野遺跡群からは隠岐黒曜石が多数出土していることから、隠岐を含めた他地域との交流があったと考えられる。(※黒曜石は全国で産出するが、隠岐黒曜石は独特の色彩が特徴である。)

○矢野貝塚 (萬代慶一様宅前の畑)

- ・矢野遺跡の中心部に存在する集団生活の痕跡であり、ヤマトシジミが覆いことから矢野遺跡は汽水域にあったことが立証される。

(※私は小学生時代、学校帰りに友達と貝塚に立ち寄り、畑土を掘り返して貝やウニを掘り出すのが楽しみであったことを鮮明に記憶している。)

○小山遺跡

- ・現在のコミセンを中心とした自然堤防上に存在し、弥生時代や奈良時代の土器類、柱跡、杭、溝などの遺構のほか、土器類への墨書やヘラで書かれた須恵器もあり、矢野遺跡とともに八野郡の中心部分であったと考えられている。(※自然堤防 河川の流れにより生成された微高地)

○蔵小路遺跡

- ・この遺跡の特徴は、鎌倉時代から室町時代にかけての「館跡」の存在である。
- ・館跡は周囲を壕で囲まれ、壕からは橋が見つかり、人々は橋を渡って館に向かった。
- ・大陸から輸入された青磁や白磁の他、生活痕(ごみ穴、墓、根石、便所など)が出土。

○大塚遺跡

- ・善哉寺を中心とした自然堤防上にあり、須恵器などの土器片がかなり出土
- ・古文書に「善哉寺あたりに小塚あり、よってこの地を大塚とする」との一節がある。

○姫原西遺跡

- ・弥生時代後期から古墳時代にかけて住居跡や井戸の跡、神戸川水系の地層から出土した木製品(農耕具、日用雑貨、祭祀具)など多様な出土品が見つかる。

(文責 吾郷弘司)